



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2015～2016 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「外に発信 内に達成感 さあ行動しよう！」

◆会長 大保木 正博 ◆幹事 坂之上 健一 ◆会報委員長 谷口 欣也 ◆会報担当 黒地 重雄

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1058 回	55 名	53 名	46 名	—	86.79%
前々回 1056 回	55 名	53 名	34 名	6 名	75.47%

<点 鐘>

会長 大保木 正博

<本日のゲスト>

認定特定非営利活動法人カタリバ

今村 久美 様

写真家 松永 知恵美 様

<会長の時間>

会長 大保木 正博



皆さんこんにちは。

今日はいよいよ創立 25 周年記念事業がはじまりました。「カタリバ」主宰される今村久美様、写真展「誕生」の作者であられます松永恵美様、ご多忙の中本日は誠にありがとうございます。今村様には後ほど卓話をお願いします。記念事業といいますが、一般的にはどこかに物品を贈ることが多く行われており、それは尊いことなのですが、私たちは今回青少年の皆さんの心に残るもの、心の糧になるものを贈るという選択をしました。私達高山中央ロータリークラブは以前より活動の中で特に青少年育成・奉仕に力を入れてきています。私見も入りますが、特に平成 3 年から 5 年に起きたバブル崩壊から続いたいわゆる「失われた 20 年間」に生まれ青年期を迎えている青少年は、親自身が将来が見えない、期待の持てない社会の中で生きている姿を見てきた世代であり、十分な親の愛情を受けていない者も見受けられます。また青少年独特の、自分ではできるんだという自信と大きな夢をもって将来を展望している者が極端に少ない様に感じられます。みんなからはずったことをしないでこじんまりと無難に過ごしているといった印象を持ってしまいます。極度の就職難社会を経験したことも彼らの今の姿に影響しているものと思います。次の時代を担う大事な世代である青少年が、自分に自信を持てる、夢は叶う、再チャレンジは可能、将来に希望を見いだせると考えることができるように、バックアップすることこそが、今後の社会にとって最も必要なことであり、

私達世代の責任でもあると考えているからこそ青少年奉仕は重要だと思います。

今村様が主宰される「カタリバ」の考え方と通ずるところがあると感じています。今回の「カタリバ」が参加された生徒の皆さんの将来を考えるにあたり、そのきっかけとなることを願います。

私たちは 10 年前に、理不尽な事件や事故で命を奪われた子供たちのメッセージと人型・遺品を展示する「生命のメッセージ展」を開催しています。

大変ショッキングな内容でしたが、「亡くなった生命」を見つめることで生命の大切さを考える催しでした。

そして今回は、「生まれ出る生命」を見つめることで、生命の大切さを考える場として松永恵美さんの写真展「誕生」を開催できるご縁をいただきました。

つい先日の寝屋川市の事件のように、昨今は耳を疑うような「生命」を軽視した残虐で猥奇的な事件が多発しています。

当たり前生命を大切にする社会を作っていかなければならないと思います

今回の写真展が今一度「生命の大切さ・尊さ」について考えていただく場となればと願います。

今日のこの記念事業が、参加された青少年の皆さんの将来のために、少しでもそのきっかけとなってくれば幸いに思うと共に、皆さんの輝く将来をお祈りします。

<本日のプログラム>

写真家 松永 知恵美 様あいさつ

本日は、ご縁を頂きありがとうございました。お産の写真を撮り続け最初のお子さんが中学 2 年生になりました。個展を初め 11 年目です。妊婦さんとお子さんで 500 人



位の写真を撮らせて頂いています。写真を取らせて頂く度に、人として生まれてきて良かったな～生きて来て良かったな～と幸せな時に戻らせて頂いています。本日はありがとうございました。

卓話 「カタリバ」代表 今村 久美 様

紹介されました、NPO法人カタリバ代表の今村久美です。父が大変お世話になっているようでこの場でお話するのが恥ずかしいですが、この機会を頂き、創立25周年記念事業に「カタリバ」を呼んで頂き感謝申し上げます。2001年今から15年前、学校の外からどう教育に関わって行くかをテーマにNPO法人カタリバを立ち上げました。当時21歳で全国で仕事をしてきました。高山では、母校の中学・高校で1回仕事をさせて頂きましたが、「カタリバ」は高山西高校で行いました。小中学生対象は今回が初めてで、地元でやると言う事でこんなに緊張するんだと初めて味わいました。「カタリバ」は何をし、何を目的なのか・・・子供達にとって親や先生は縦の関係、友達は横の関係と言われますが、子供たちを勇気づける存在、斜めの関係が重要でありそれが今の社会から失われているところを注目して仕事をやって来ました。親に言われたら、イヤとする事も利害関係がない斜めの立場から入ってこられるとずっと入れる事がある。思春期の子供にとって斜めの関係が存在したら逃げ場や未来の夢を描く事が出来るんじゃないかな～と思い教育活動に活用しています。小中学生は、地域の人と関わりがあるが高校生からは、先生と生徒だけの関係になり、その中で人間関係がうまくいかないと自分の中でショートしてしまいます。同調圧力が苦しい。1歩前へ出る力を出しにくくしているが、斜めの関係の出会いが自分自身を開放してくれる存在になれると思ひ、大人やお兄さん・お姉さんに授業に関わってもらっています。

今回、ハードではなくソフトに記念事業にされたと言う事は素晴らしいと思います。子供たちは、機会を与えれば与えるほど未来を作る存在になって行くと実感を持っています。大人が本気になって子供達に関われば子供たちは大人に憧れます。ロータリークラブ会員さんが学校に出向きキャリア教育をされることや今回の事業に重点を置かれることは大きな価値があると思います。2020年に教育方針が変わり大学入試が変わります。暗記したり1つの正解を出すものから、自分で仮説を立て100個の答えから1つを選んでいく、考える力・発言する力・創り出す力こそがこれからの社会で求められていくと考えられます。大学入試が変わると、高校が、中学が、小学校が変わります。ロータリークラブさんが今行っているキャリア教育の取組みは、方向性が一致しています。子供達に議論や話し合いの機械を与え、正解のない問いにどう思うと問いかけ、解答して行くと言う事を教科書以外の所から学ぶ時代になっていると思います。これからの高山に勝手に期待させて頂きます。本日はありがとうございました。



創立25周年記念事業「カタリバ」&「誕生写真展」



開会の言葉

堀口 裕之



写真家 松永 知恵美 様 あいさつ



高山市教育長 中村 健史 様 あいさつ



高山中央ロータリークラブ

会長 大保木 正博 様 あいさつ



カタリバ会場



写真展他



